

第662回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2024年4月度 ——

- ◇ 開催日
2024年4月15日（月）
- ◇ 議題
＜テレビ番組＞
「今田美桜 Fのミライ 2024」
放送日時：3月24日（日）午後4時30分～午後5時30分
- ◇ その他

九州朝日放送株式会社

第662回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2024年4月15日(月) 15時30分～16時45分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	藤村	まこと
副委員長	上野	恵梨奈
委員	山根	久資
委員	副田	智幸
委員	サーズ	恵美子
委員	小柳	美佳
委員	森	慎二
委員	泗水	康信

欠席委員数 0名

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森	君夫
執行役員 総合編成局長	木附	ゆかり
執行役員 報道情報局長	柴田	高宏
総合編成局 コンテンツ戦略部長	藤村	翼
総合編成局 コンテンツ戦略部 番組プロデューサー	朝本	祥典
KBC MooV 制作プロデューサー	江良	和也
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	吉岡	実
番組審議会事務局(視聴者・広報室)	松永	俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組 「今田美桜 Fのミライ2024」
放送日時：3月24日（日）午後4時30分～午後5時30分
- (2) 4月・5月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 3月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 福岡市の魅力と可能性、活気が詰まった内容だった。難しすぎず、エンタメすぎず、福岡市の「今」が丁寧に伝えられていた。「情報バラエティー」番組として飽きず見ることができた。
- 街の未来をイメージすることができた。新しい魅力が誰にでも理解できるようになっていた。大人の社会科学見学のようで「楽しむミライ」を想像できた。満足度の高い地域密着番組だった。
- ハード面の変化だけでなく、ソフト面の変化にも焦点が当てられていた点良かった。
- 若い世代から注目されている今田美桜さんのナビゲーター起用は良かった。福岡市の高島宗一郎市長やKBC宮本啓丞アナウンサーとの絡みも軽快でとても良いキャスティングだった。
- 街の変化を「寂しい」と捉える人もいる。昔からある施設の紹介や写真が映し出される場面では、自分に置き換えた視聴者もいたのではないかと。若年層以外も興味を持つことができた。
- 率直に意見する今田さんに親近感を抱いた。どうすごいのか、どう素敵なのか表現されており、固くならず、民間人の視点も取り入れられていた。街と今田さんの成長が重なった。
- 子育て支援について高島市長から直接具体的な説明を聞くことができたことは有意義だった。
- 高島市長によるヘリコプターからの解説は分かりやすく、街全体を見渡すことができた。カメラワークやグラフィックの活用などはテレビならではの工夫を感じた。
- 裏天神の特集は知らないことが多く新鮮だった。行政主導ではない町の人たちによる新しい街づくりが描かれていた点もよかった。
- 福岡市の広報番組になってしまいそうどころだが、市民の声や飲食店などのインタビューが盛り込まれたことでバランスがとられていた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 話題が詰め込み過ぎで、メインテーマが何か分かりづらかった。
- 多くの取り組みが個別に紹介されていたが、福岡市が向かっている全体なビジョンの総括も必要だったのではないかと。
- 「博多コネクテッド」の話題は唐突感があった。
- タイトルの「F」が福岡市の「F」なのか福岡の「F」なのか分からない。

- 「福岡のミライ」と言いながら、福岡市にしか着目しないことに寂しさを感じた。
- 今田さんを「ちゃん」付けで呼ぶことに違和感を覚えた。
- フランクに市長から話を聞いた反面、問題点の掘り下げが不十分だと感じる場面もあった。
- 宮本アナウンサーの起用方法に疑問を感じた。どのような役割だったのか気になった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 5作目となった今回はソフト面の変化にも焦点を当てて、過去にない話題を盛り込んだが「詰め込み過ぎ」という指摘は反省点。全体的なビジョンへの落とし込みも不十分だった。
- ショートニュースのように色々な最新情報を挟んだが、いくつか唐突感を抱かせた。
- 「Fのミライ」は福岡市の「F」。ナレーション等で違和感が生じないように工夫したい。
- 福岡市以外の人も楽しめるように、他自治体との比較やアクセス紹介などの仕掛けが必要。
- 「ちゃん」付けは親近感の演出だが、使うべきところと使うべきではないところを区別する必要がある。
- 福岡市の現状を楽しく見せたいとの思いが勝り、突き詰めが足りなかった部分は反省点。
- 宮本アナウンサーは番組を回す役割を担った。宮本アナウンサーがいたことで引き出せた高島市長の表情もあったが、それがゆえに少しフランク過ぎた場面もあったかもしれない。
- 今田さんから2日間の取材日程をいただけたことにより、高島市長と宮本アナウンサーの3人がそろった。今田さんのナビゲーターとしての成長により安心して挑むことができた。
- 視聴率は北部九州地区でM1層の占拠率が1位。今田さんの人気の高さが伺えた。

などの説明をしました。